

慶長
以來
新刀辨疑

五

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5



6206

新刀辨疑卷之五

畿内

東海道



栗田口近江守忠經

栗田口近江守忠經

忠綱ハ播磨國姫路ひめじの人末師栗田口あしひらの傳ついでりて栗田口を稱なづす一竿子
が父也後大坂小住こぢしを江大掾と銘なづす後近江守と切きるは作地鉄
細又龍りゅうく丁子ていし虎この上子うしや丁子の様よう称なづす後吉色きちしきと似にて大和

守河内守小栗田重經井氏と切物有
一書小水村多夫と云按又小水村多夫と云何小村と称せん

九峯

栗田近江守忠經

ウラ ○ 雕物同作

九峯

卒子栗田忠綱 雕同作

指表俱利伽羅 裏香箸楯

大龜文又

元禄五年八月日

大龜文又長二尺二寸五分

一竿子栗田忠綱雕同作

表登龍裏際
龍 大龜文又

九峯

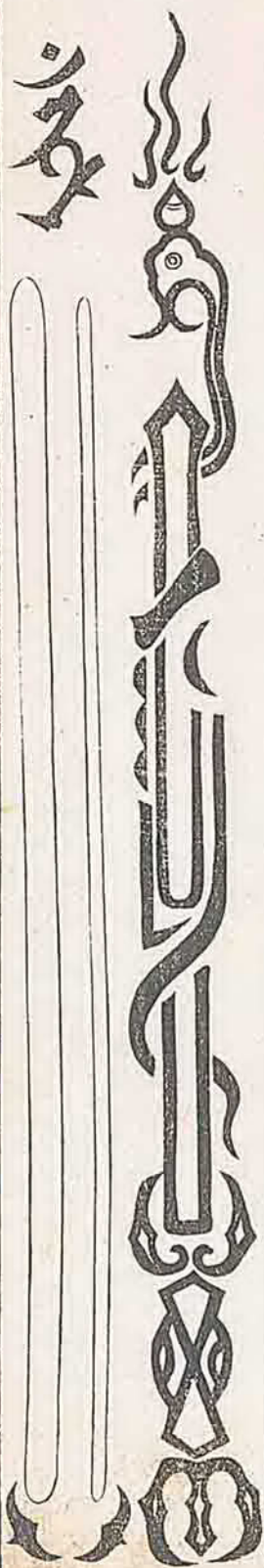
元禄六年二月日

栗田近江守藤原忠綱

又長二尺二寸五分 大龜文彫九の如

彫同作

元禄十年二月日



栗田口平子忠綱

元禄十三年八月吉日

穴ヨリ末長八寸五分 九ツ峯



雲ノ重
シ

地鉄助廣ノ出来物ノ如ク強クシテ
小鋭多ク白至テフカシ

反
格好共
ニ勝レタル
薙刀ナル故
全躰ヲ圖ス



九ツ峯ニシテ高カラズ

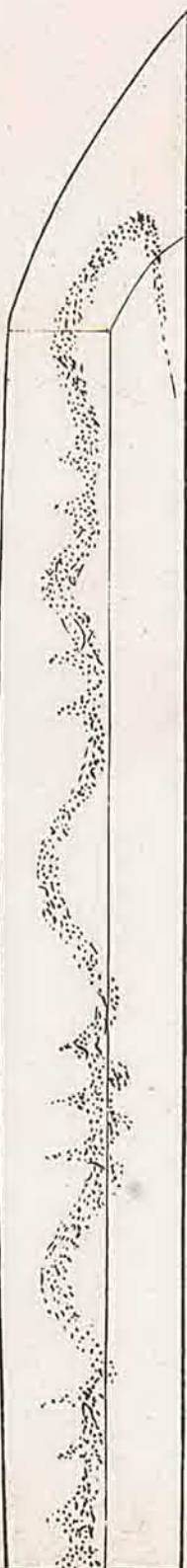
栗田口近江守忠綱殿同作

刃長二尺三寸八分余

元禄十三年二月日



シ



一竿子忠綱歌同作

刃長一尺八寸二分 龜文刃

元禄十二年二月日

九竿

栗田三竿子忠綱

龜文刃

元禄十三年二月日

忠綱ハ振出大坂の住人栗田口近江守の二代萬吉と云おハ此江
 ち忠綱と切父と銘切ハ少少法もとも栗田口のとちを以て云ふ
 也此作地鉄細ふてふ龜文能辨ひて白い漆く強き出来多し後一竿
 子と切一は老ちと云ふとやうふて丁子の少きを白ひて様
 柄と金銀の外働起有龜文ありは龜文を世に鑑念傳と云彫物ある
 るわちを和したる物多し直又漆り、別て出来物多しは彫一様有
 て鉄強と云ふと里と勢ひ有り彫ハ後藤系生が彫のさ者て又中
 あうと云ふと一様ハ仲て帽子をさすあり少しとある心あり
 老成實永正徳の比造りハ保地鉄強くある物有

一書又一竿子小葉應の曆の年号ありと云按て應永の比ハ初代
 忠綱ハ中年の頃ありと一竿子ハ近寶天和久享元保實永正徳
 の作多し同書ハ北村万吉夫と記有り初代の評不盡す

栗田近江守忠綱

小肉アリ

は忠綱ハ一平子ガ子政ニ進ミ云々代目也其作地鉄細ハ小鉄白ハ漆
火加減少ビ云々方也彫物ハ父ヨオ云々名人也銘中心父
小似リ鉄モゴロ口ノ字ヌア所ヨ綴父ヨリ深シ

九等

栗田近江守忠經

兩人ノ作ニテ直ヌ至テ強シ

拱刃住藤原長經

長經ハ初代忠經ガ弟子師弟直ヌ至テ強ク見テ云々

拱刃住藤原忠行

小肉アリ

刃長二尺二寸七分 中直ヌ

忠行ハ初代忠綱ノ子直ヌの名人也其作地鉄磨々云々似テリ同
銘数人アリ云々も揚州住藤原忠行ト云々切ハ一人也後集に
弘包固也兼先云々等と云々評セリは云々ハ大ナ物也

角等

分岐守土二道

角子

大坂初代

分岐守土二道

「角峯」

○ 丹波守吉道

「刃長二尺三寸」

「角子」

○ 丹波守吉道

「刃長二尺三寸五分」

○ 丹波守吉道

「角峯丁子龜文強シ 刃長二尺三寸四分 大和丹波兩初代」

○ 大和守吉道

「角子」

○ 丹波守吉道

○ 三品丹波守吉道

「角峯 刃長一尺三寸」

「平作り重子厚シ」

「大坂二代目」

「ウラ」

延寶三年二月吉日

○ 丹波守吉道

二代目

「角峯」

「ウラ」

元禄二年二月日

○ 丹波守吉道

○ 片波守吉道

「角ム子」

「刃長一尺八寸」

○ 片波守吉道

「刃長二尺五寸二分」

「角ム子」

「菊水刃」

○ 片波守吉道

「角ム子」

「刃長二尺一寸二分」

○ 片波守吉道

○ 片波守吉道

「角ム子」

「スダレ刃」

「大坂三代目也」

吉道ハ大坂の住人丹波守の代也世々祖父丹波守よりす地鉄細ふ
 至く強く小縁甚振りて自いゆく中出来古雅よりて勢ひ有又兼
 たるハ世々花菱なる事といふ程の上手古今一人也強く是やう来
 ハ新刀の手要ふれむを操いゆゆ登し角ム子平振後ハ大筋達あり
 則し振出しの不易く是れのみ大すじ達といひやうも一寸半
 里摩りては中にぬりぬる中ハ角ム子の面をかきぬ也

一書に丹波守大和守家の祖ハ美濃國関の住和泉守兼定ノ末葉
 也ハ人利あき振小縁し又京師ニ移居し之和の比振別大坂へ
 移る即初代丹波守也弟たちも同和に住すと云振小丹波守の

銘を又ふ小束ともち板は定め難に銘數ありあまふを以てを親
 まむつ書の祝の如くつふして密書せし者とてたり然れは丹
 波守と大和守ハ兄弟ありと云祝ハ思ふに非あらん是二代丹
 波守ハ兄弟あるを

二代目丹波守ハ君の弟を以て取封を實ハ二代目也丹の字父の
 如く廣くず地鎮細く自ひ深く多ふすづれ榮ふ丹波守は丹波
 して龜文みふ熊る所ハ其の中へ此を殊に撰録せしむるに語
 小乃をせざる能く出する事ある物君を地の内へ玉をみふ
 極り也中心ハ父と同一くみ方厚し後集ふは丹波守を中丹波と
 唱ふと書して二代目者るを漏り二代目の作も父にあらず
 づる上も也中心ハ祖父小似てみ方厚く銘すことたま

角筆

大和守十二道

角小字

大和守十二道

み長二尺二寸五分

丁子龜文

萬治三年八月吉日

角小字

大和守十二道

ウラニ 萬治己亥二年八月吉日

大和守吉道

角半

大和守吉道

中心センスキ

丹波守吉道
大和守吉道

為あ人作之

吉道ハ大坂大和守の初代也里の歴代治実又の比の治又は作地
鐵御ありに割るる云々バ丁子龜又ハ重花の如く云々並
の玉は焼はする中河内國助あ人ハ特刀の一も云々も云々物也中

心角半銘平綴^{ハタ}云々の口歴代治^{ヤサリ}少め達^{ヤサリ}云々いり云々云々

己目能く立ち里に佐助廣^{フナ}不次^{フナ}屋^{フナ}如との也併世の常^{オウシ}屋^{オウシ}を以^{オウシ}替^{オウシ}く云々云

一書ハ初代丹波守吉道弟大和守吉道^{フナ}子^{フナ}上^{フナ}屋^{フナ}吉國^{フナ}子^{フナ}上^{フナ}屋

吉道ハ森下孫^{フナ}吉國^{フナ}子^{フナ}上^{フナ}屋^{フナ}吉國^{フナ}子^{フナ}上^{フナ}屋^{フナ}吉國^{フナ}子^{フナ}上^{フナ}屋

小一人大和守者上^{フナ}屋^{フナ}吉國^{フナ}子^{フナ}上^{フナ}屋^{フナ}吉國^{フナ}子^{フナ}上^{フナ}屋

平^{フナ}吉と云^{フナ}按^{フナ}又大和守世^{フナ}二^{フナ}代目と云^{フナ}後集^{フナ}も云^{フナ}京四郎

吉國^{フナ}後^{フナ}信^{フナ}吉國^{フナ}子^{フナ}上^{フナ}屋^{フナ}吉國^{フナ}子^{フナ}上^{フナ}屋^{フナ}吉國^{フナ}子^{フナ}上^{フナ}屋

とい^{フナ}云^{フナ}信用^{フナ}云^{フナ}い^{フナ}云^{フナ}二^{フナ}代目のち^{フナ}和^{フナ}吉^{フナ}云^{フナ}云^{フナ}後^{フナ}吉國^{フナ}子^{フナ}上^{フナ}屋

家業^{フナ}と云^{フナ}い^{フナ}云^{フナ}子^{フナ}也^{フナ}とい^{フナ}云^{フナ}二^{フナ}代目^{フナ}云^{フナ}云^{フナ}名^{フナ}人^{フナ}云^{フナ}云^{フナ}

吉國^{フナ}同^{フナ}村^{フナ}又^{フナ}中^{フナ}年^{フナ}の^{フナ}人^{フナ}也^{フナ}い^{フナ}云^{フナ}云^{フナ}吉國^{フナ}子^{フナ}上^{フナ}屋^{フナ}吉國^{フナ}子^{フナ}上^{フナ}屋

吉國^{フナ}二^{フナ}代目^{フナ}と^{フナ}吉道^{フナ}と^{フナ}記^{フナ}し^{フナ}云^{フナ}代目^{フナ}も^{フナ}吉道^{フナ}と^{フナ}記^{フナ}せ^{フナ}り^{フナ}能^{フナ}く^{フナ}云^{フナ}云^{フナ}人^{フナ}云^{フナ}云^{フナ}

云^{フナ}云^{フナ}二^{フナ}代目の^{フナ}大^{フナ}和^{フナ}守^{フナ}ハ^{フナ}吉國^{フナ}子^{フナ}上^{フナ}屋^{フナ}吉國^{フナ}子^{フナ}上^{フナ}屋^{フナ}吉國^{フナ}子^{フナ}上^{フナ}屋

大和守吉道

「ウフ延寶二年二月吉嶋津重勝不持釵
中心長九寸丁子龜文 又長二尺八寸二分

大和守吉道

角ム子

三品大和守吉道

又長一尺六寸四分

又ノ中菊櫻日月星ノ
モヤウ富士ノ二字アリ
玳カト云ベ

主生國駿河安倍府中

延寶三年二月吉月

吉道ハ大坂大和守ノ二代目三品即ち南後傳者處つと改む所所
任す大銘切て守の字父々作す長しは作地鉄細又自後とて深
く兼み又丁子簾芳川龍田川つゝの握杯解ふて比すぐ地物
おしは作を世不照路大和と云ふ多家五珠の時持持せしゝゝ
二代目丹波とて作も有也 一書の親父の評ふ事し

角ム子

大和守吉道

角ム子

三代目ナルヘシ

大和守吉道

大和守吉道ニミ代の評勝久為すミ代の子後集ふ論ふし初代ミ代
ハ世ふ多し所也ミ代目為地鉄細又自後深く兼み又丁子菊又み物

方を上下の里然と雖も父祖の志あり初代に似てたがれ
初代より御の深し中心の仕立初代に似たる

角筆

○ 卅後守直道

藤原魚道兼ア下ニ於振州城下以南蠻鐵造之ト切レモ有

三品 卅後守藤原魚道

角筆

ウラ

卅後守魚道

二〇〇 寛文三年二月日

直道ハ振州大坂の住人初代丹波吉道ノ弟子丹後吉藤原直道と
切又三品丹後吉とも稱す後ハ兼道と改む此作地鉄細隆ノ大氣
又大津直又此處又丁子飛文のろくの様様會何とも稱自保之部と丹
波吉同位の上手也指表小葉一と切初代とす

一書小直道ハ濃州關和泉守無定ノ末也丹後吉吉道元和の比系
より大坂へ來二代ノ系丹後吉と云ふ大坂小住すニ系吉藤と云ふ二代
目ハ吉之弟弟子三品丹後吉無道と切表平治と云即元治の御馬
守兼光ノ父也據ハ丹後吉と云ふ吉道と切しとあり又ハ初代
丹波吉吉道同村又大坂小住しと云ふ人ニ系と号するを以て又ハ初
代丹波吉と云ふ弟子也

角筆

○ 卅後守無道

代丹波吉と云ふ弟子也

○ 市後守之世道

「二代目」

兼道の二代目ハ後江戸に傳す九平治或ハ嘉平治と後集不見た
里いつまは是あまや此作丁子龜文ハ初代ハ方々大龜文ハ上子
稻尾丸と切も此作あるぞし

「小肉アリ」

○ 河内守藤原國助

丁子及強シ

此二人國廣の門人故相共小造りたる事ぞし

寛永十九年二月吉日

和泉守藤原國貞

國助ハ大坂河内守の初代也堀川國廣の門人として中河内の子也

一書國廣の門人國友の子和泉守國貞大坂に傳す國友の子河内守

國助と云按は國友の初代國助の初代而して其の國廣の門人なる事

明白なるの事作も國助ハ國友の子ある時を表し國貞裏に國助

本金起を表し國助を切し切又もむ國助ハ國友よりハる事と云へ

たり

「角澤」

○ 河内守國助

小林中河内より出来

又長一尺八寸一分丁子龜文重花ハ氣テ見事ナリ

寛文三年八月吉日

角峯

小林河内守國助

又長二尺一寸五分 丁子龜又白澤

延寶三年二月吉日

角峯マシリ斯ノ如シ又長二尺一寸五分 丁子龜丈六尺三寸強シ

河内守國助

角峯 鑽石ニ同 又長二尺五分 横手下六丁子崩ル

河内守國助

角峯

河内守國助

中河内初代大和守兩作

丁子又

大和守吉道

中心長八寸五分

河内守國助

角峯

河内守國助

又長二尺五寸五分

國助ハ大坂河内ちの二代目あて世中河内と賞する物是也は作地
 鉄細く強く白くまき丁子みの名人著く世の知る所也重子子ハ
 一通丁子小様標を取又丁子と丁子のるる月のおと戴く地逆足
 大丁子のこ直又大氣又又富士見西行と云氣ハは作ふ限りてお也
 秘平たふ鏝いあて油あ中心い筆の角を少し面細く也中心の先よりを寸五
 分の所まで力をとる里の他の新刀中心より異也帽子強くある
 心で能え強り鉦え元のお又たおさる里つ長し丁子みの見分た和
 ちハ一重河内ち也二重と知し

一書又初代國助子河内ち國助弟子廣家ハ後津田助廣がつ人
 とあり廣義子河内守國助をくく通と云寛文十二年四月八日
 つく二人國重兼康と云又初代國助子石見吉國助小林源と云
 寛文十二年六月十七日筑前守つ一橋住す二代目河内ちハ京都少佐

三代目ハ豊後國杵築より向子孫傳所不連綿すと云按ふ初代國
 助の門人廣家津田助廣と云あり又子と云通又十二年四月八日
 と云る石見津田助廣と云る刀作野重義不特の裏銘ありて二十
 年寛文十一年と切る有也廣がつ人廣家子と云通又十二
 年四月八日と云ふハ時代府令をすは鋭目いふことと云國
 助ハ中河内子と云ふし又廣義と切し作をるはハいふことと云

角筆

河内守國助

角筆小肉

三代目ハ豊後國杵築より向子孫傳所不連綿すと云

河内守國助

四代目

角峰

大龜文國輝ノ如シ

○小林武藏守國次

武藏守國次ハ初代國助ニ傳テ中河内ヲ弟紀隆ニ國康伊勢ヲ
國輝ニ兄ニ可成ニシテ能成ルヲまたハ伊勢ヲ國輝ニ傳テテ
作ハ兄弟ノ中ニシテ土地狭シクテ大衆多シ故ニ國康ト以
國次ハ兄弟ノ中ニシテ

肥後舟國康

双長二尺一寸六分重花龜文

肥後守國康

「ウラ ○以南蠻鐵作

國康ハ吾國次リ茅國粹々又ハ作此缺玉て細小強々白い澤々丁
子丑の名人中河内同林の作也能出来ても無初代大和雪吉道子似
ナリ然れども國曲一家の重子子の言を以て知し子ハ劣おとなる物
あり

小林佳之進國輝

小肉

國英卜七切也

○小林伊勢守國輝

スリ上殘二尺守一分 大龜文

「ウラ 寛文十一年霜月ヨ

小肉
○小井伊勢守國輝

「ウラ」貞文子三月八月日

○小井伊勢守國輝

刃長二尺一寸六分

○寛文二年二月日

○小井伊勢守國輝

「ウラ」寛文二年二月日

○伊勢守國輝

中直刃白深し
上リ龍下リ龍ノ彫面ニ有龍ノ上両面添樋也

元禄十二年八月日

長サ二尺一寸七分
予カ所持ノ刀ナリ

龍配 ○伊勢守國輝

刃長二尺四寸二分
細直刃

寛永四丁亥年仲春吉日

小林伊勢守國輝

鎗長九寸三分兩鎚ニテ廣直又中心ノ長一尺三寸五分

國輝ハ大坂初代國助ノ四男マデ中河内等々弟也小林集シ進國英
とも切中此伊勢大塚後ハ小林伊勢守國輝ト云々切也第居寛文近
寛文和貞享此各地鉄細ク強ク勇テ荒録小流多く自ひ至テ深ク大
龜文大澤廣直又ワレも花ヤル出ルル所シ寛永西德比老後の
作ハ情カ衰フヨウ也地鉄の降玉田更ホキとの五鎚と云々
里仍物アリ難シ帽子能クホリ自ひマテ拍ノ助廣の切先ハ似ヤリ
一書ハ小林出羽大塚孫系國輝ト云々孫中伊勢松山住ニ好辰
の部孫系國輝ト云々若キと云々是ハ輝政ノ子ナリ云々

角峯

新田伊勢守國輝

角峯

新田伊勢守國輝

角峯大龜文砂流み長二尺四寸三分

新田伊勢守國輝

角ノ子虫又ホツレヌナガシ

新田伊勢守國輝

包保ハ揚州大坂住人世不左陸奥と云以作地鉄強く勇々村肌
 育て古く之ゆる也あゝ松小籠多々自ひ涼し偶乾きたるもの育大
 氣文海産亦多々也先祖手搦の風流に里緯造りて帽子丸く志ま
 る里都て金子厚く三角ふりて庵深し襷はくくくと働きふしお
 田路し左様なり也

一書又大和國手搦の末葉中川陸奥也包康と云た里康のまづし

角半

陸奥守包保

角半

陸奥守包保

角半

陸奥守包保

陸奥守包保

軍扇ノ茎也堅長六寸余横幅凡五寸

角半

陸奥守包保

角半

陸奥守包保

角峰

陸奧舟已重

新奧守分堂

左陸奥守なり也とも云ふ事あり初ハ包重と切後包保と云銘不
切る世ハ右陸奥守と云義す按ハ包重と右陸奥包保とハ別人來レ
陸奥の趣意違ハ不有包重左陸奥より故能知る者ハ四卷シ

角公子

初代

越後守包桌

角筆 二尺五寸二分

越後守包貞

小肉アリ

言之進若年ノ銘

越後守包貞

小ニク

越後守包身

刃長二尺二寸七分

大龜文

延寶七巳八月吉

越後守包角

小肉

「ウラ 天和二年二月吉日

坂倉言之進照包

又長二尺二寸九分 中綴理

天和二年八月吉日

小肉

大灣ニアレ配リテ見事ナリ

坂倉言之進照包

「又長二尺二寸七分

小肉

坂倉言之進照包

又長二尺二寸一分

大龜文小アシノ方也

天和二年二月吉日

小肉

坂倉言之進照包

又長一尺六寸五分 大龜文強シ

天和二年八月吉日

坂倉三之進照包

刃長一尺六寸七分

ウラ ○ 天和二年八月日

包貞ハ掛お大坂の住人誠後也此作地録至て細小縁白ひ有て丁子又大龍又此包つづきもみ添く切物也

照包ハ後集又誠後也つづきもみ添く切物也
と切近實の末より坂倉より進照包と切と云掛お初ハ誠後也と切
後ハより進と切あるの違中故未だ詳あはれは作地録至て細小縁
我差録小縁多く白ひ添く切と切ハ丁子又関龍又此包
し丁子龍又此包の如く大坂河内より少少坂倉言と進と切ハ大龍又
ハ津田四郎より大坂村より花やう来る等々此物おし此包のたき

何事も白ひ添く津田助廣小父縁ありの也其長心未だ夏あつと
此照包より及作者をみず白津田より及此包の次ふ出屋
き物也

一書小大坂國手摺の末葉大坂住中川陸奥也包康が弟子誠後也
包貞山田也と云弟子包光包次有人又作やち包道が弟子
又誠後守包貞者山田平次と稱す中子岩松とすふ同縁三代者
後集又二代目の誠後也包貞ハ初代包貞の弟子と知やれ謬也坂
倉より及此包と云せしも非也坂倉より進ハ関の照門の末より
大坂不傳すと云り掛又一書ハ記聞ふて既ハ國傳を國友とし
包保誠包康も作るが如しハ照包を初代の弟子と云あはれ伊賀
也包道門人山田平次と云者也お一人誠後也包貞者照包ハ
関の照つゝ未だありと書せしハ照の一字を以て見坂倉又関の稱ありし

新記せしあづし物も既又坂倉越後も照包と切する物ありハ
 二代目越後も包欠後言々進照包と改しる疑念くず表の方越後香
 と切指表又坂倉言々進源照包と初の銘後の銘切する刀あり又三
 代者も二代目と云々進とのあ作あや近安七季の包欠とあ作
 の包欠と云々同人と又坂倉越後も切たるも同人と又又た至初
 代江田市南と云々坂倉田平方丈と云々若外あふりけりる朋あり

小肉

越前守源来信吉

高井氏

小肉

越前守源信吉

刃長一尺八寸五分

小肉アリ

越前守源来信吉

刃長二尺一寸五分

地鉄ニマリテ大龜文白深津田助廣ノ
 出来物ノ如シ裏銘切ハ多分出来物
 ナリ

以播列完栗鋼鉄作之
 貞享五辰八月日

小肉

豊後守藤原國義

あ作也大龜文砂流し



高井越前守源信吉

信吉ハ振州大坂内中町小住する井城前雪源末信吉と切以作延実
了和欠子之孫比の治マ地城細又孫自育て直又湾ハ出政を寫し
龜又ハ津田助廣ふりて遠山雪實ふ利を云べし二家と云ふを經一
新島乃らるる所也

一書小山城國の住人高井城前雪源末信吉弟治寛父の比之弟と
切又信吉も信吉ハ初代無源と切二代目ハ孫系と切初代信吉ふ七
川朋^{（りやう）}廣の刀有る井金^{（やう）}と稱す越前守ハ初代信吉の弟也信
吉も信吉も初代の子とて京師中も大坂も住すおとと相模
守信吉も市^{（し）}と稱す又久祖信吉^{（しんきやう）}居偏信入道源末信吉と切
寛文中ハ十五歳とて是^{（こ）}なる方とて里^{（り）}振阿波守お模^{（も）}とて切
一なる金したる初代二人共小市^{（し）}と云ふと云ふ不審也後系ハ
京信吉の弟豊後國^{（ぶんご）}系とて弟城前とて記也

角筆

常陸大掾宗重

「角筆 大龜文砂流地金ツリテ見ゾト也」

二本共二初代ナリ

常陸守宗重

宗重ハ振州大坂常盤町小住す關金重^{（せき）}の末葉也は作地城細小系孫
小孫多く自玉と深し海直又大龜文何事も花やう木物多し秋物小
造^{（ぞう）}なるも保又^{（たも）}より肌おく強く出来たる也善とす常陸大掾と切
て後ハ常陸とて切也又四^{（し）}字^{（じ）}と稱ハ二代目も同銘也後江戸在
一書又初代宗重ハ津田城前也助廣^{（すけひろ）}の門人と云ふ二代目多田常陸
守宗重と切二代目宗貞ハ豫州松山に住又大坂宗重と云ふ切部

治方常盤所より傳す寛文のはたと云々拙小常陸守二子銘小宗室
とむりも切しあふぐし日時代はめ又因縁の者金起るふあ
ず二代目宗重ハ後家をも切しあり

角小肉アリ

花房備前守源祐國

刃長二尺五分

花房備前守源祐國

祐國ハ生國紀ある石堂のつね也後ハ招州大坂より傳す初めハ
紀伊國祐國又無名少きいのにすけふと切しも者後大坂又
てハ備前守源祐國と切花房備前守古切也ハ作地蹟細く能くあり

麗おあゝ銘小銘多く自源し後集又津田助廣又似たりと也銘文ハ
南紀重國ハ銘文又少似て直又ハ初代忠行ハ似たり

小肉

陸奥守橘為康

刃長二尺五分

備中守橘康廣

為康ハ紀伊國石堂の嫡家富田六郎左衛門と号し後ハ招州大坂小
住平光祖ハ備前一文字のゆきと云治工明應中近江國蒲生郡栗原
大子軍基石塔寺の門あり未傳す故石塔石堂或ハ石道と稱しゆ長
々末紀州和歌山ハ未傳す紀伊國石堂と稱す此何國康廣又備中守共

切是為康公也為康公事の以ハ傳中も康公とも又古伝抄監切後富
田陸奥守播為康又於大江山富田奥州造之と切しも古伝抄地録細小能
志まり荒録小能乃て白ゆし父の作の如く鬼牙も有といふ大氣文小出来
物多し江戸光平是一常光と姫國の石堂皆助長も末葉あり

九段

攝津國天満住國光作

津田助廣ノ小足ナルカ如シ

國光ハ備中國の田大月與子郎の弟安左衛門と云振あた板天満不
住從て世ふて藩の田と稱す後ハ江都縣町小住江戸の田を云は作地
録細小大廣廣也又大氣文あり録少能多の白ゆし地録多き物も有
板目ふしと能出来てゑ見と云郎もあといふ江都より打
ふと不出来もあり二代目も有といふ

一六六子

和列半振也永十代孫

信濃守弘巳

弘巳ハ和列半振の末孫より振あた板の佐々珠ハ左衛門と云後集又
は作地録細又直刃の名人ありと云然も地録おん分りと云美平
の地録は似て手振物の能の如き少来多し云又も荒録光り有て
亦多平の録又似たり直刃氣文不上手也又後集に因州兼光の如き
振剛佐々此弘巳四人直刃の上手として同位の心細書やる併兼光出
行會の書に云又といふ通ちふ異あり

一書又元祖弘巳惣分多き故世人様多珠と号すおハ多珠四郎
とし後從傳書と切市と云と云二代目ハ市藏と云江都小住すと云
振又初代ハ左衛門お市と云と云し一書し初代弘巳ハ弟子多し

其及往藤原國幸

又長二尺一寸

金サラリト出来タリ

國幸按おち坂或ハ尾崎又住す堀川國廣うのち地狭の延徳國廣
ふ似たり傳二代目の國終同位の作あふり

小肉中龜文

多田次兵衛尉貞行

貞行ハ按おち坂の住人也後集ふ銘中心を出さば縁あるがも予
がえし一刀ハ地狭細小龍ありて白深一大龜文ありて初代宗重
少似たり常陸守宗重も多田守之圖と縁ハ疑ふるもつ對あるんが
為ハ出ぬつ人あふ守中心の仕立終出ぬと似たり

角△子

丹羽相摸守源則廣

常陸守宗重ニ似タリ

則廣ハ紀州より大坂へ來住す傳云圖つと云上あ地詳後集ふ評セリ

角△子

河内守源康永

康永ハ備中守播磨屋つ人より長幸の師也此作康廣為康より
あつてづる上あ地認形中心の仕立つるものあり

角△子小龍文白深アツ也

多々良氏長幸

長幸ハ振州住人なり康永の人也後有龜文の上手幼代様の上座
大縁又尺餘なりと有保後有振州の鑛色ハ自ら又分る所方勿
論作も横山祐定よりハ上手也

「小肉アリ」

撰列住國小丸

國光ハ地鉄細又自深く丁子龜文肥後國康少似し至是も上作
一書ハ河内國出子紀伊國康弟武藏國光小林ハ康少の
と云と按ふ國次ハ初録ありしハ其紀伊國弟武藏と記し集
又ハ河内國ハ之男國康四男國輝と云たり何れも是より我

「角ハ子」

武藏守永道

又長一尺七寸五分 中龜文隆

永道ハ攝州大坂の住人也此作地鉄隆く龜紋多し山崎守秀辰小
似り上手也

「小肉アリ」

池田鬼神丸國重

了也小鬼神丸ハ傳中ハ國重様ありて其て池田鬼神丸と銘す
と云按ふ水田より來て河内國助つてありと云ふし作ハ前集より

「角峯キリ 鑛子又長一尺八寸 細直刃」

播磨新島子廣重

「廣高廣重ハ父子ナルベシ」

播州の氏無常同位の作と見へり
小銘自深し上手あり

曰古狐丸廣重

○松のり子廣高

廣高ハ後集の河内也廣高の二代目市左衛門の子あつて地鉄末
の二王の如くあま小頼者上あや初代廣高よりいふれり廣高も父
同位と入つたり

但馬守宗次寶曆の比の御治より弱き所お多し上あふあふ

城を郎光雄ハ飛文あふし龍名子同位のお也

○東海道

九ム子

○陞奥守藤原歳長

歳長ハ先祖相州鎌倉傳長谷郡の末流二村廣次京堀川に住し大坂
つり後又阿波津所へり子孫は地ふ常小阿波國徳津住二村武
藏守歳長と物名又阿波國徳津所安宅住つおる又雪同也城守
同徳貞も同左近将の銘皆一つ表へし陞奥守兄山城守阿波より
京都より又江戸つ下向し白銀又ハ雪新堀日影可も住す二代目
ハ初代後歳長と物名又雪徳貞もハ京師に住し後勢州安濃
津へ移住すけ作地鉄御ふ少頼自保く灣守又大龍又も京都へ移り
能く位者中へもく徳貞也又又事也安小上居り也

一書曰二村陸之者あつとちハは家老之者之銘あり

角小肉

○前伯列信高入道
山月居士

表銘ハ 無二す二三

○前伯列山月信高入道

丸筆ノシノギ高シ

○伯老見守藤原信高

二代目ナリ

一書ハ信高ハ濃州関之河原ノ末葉ハ子ハ伯列入道関越ハ信高ノ父祖ヨリ寛文四年六月四歳メテ死ス二代目ハ山月居士ニ代目無

伯耆守四代も同銘ニシテ此ニ稱す代ノ家智ヤモウモハ行照ト切
ミ云梅ノ三代トハ同位の上ホメテ四代ヨリハミ作メズトシテ
阿ゲテ上ユト云レバミエ祖閑越ト銘スモ未ダズバ

○尾列住藤原貞友

貞弘ハ西集セシ漏メぬ若ク廣ガク銘スルモヤカ知ルモ中出来乃ダバ

ウラ ○以諸又鐵作之

○尾陽住来国治

國治ハ尾州の鑑治メテ江都トモホリ里山應享保の初ハ以務田元
博の京メテ鑑一物知ルモ務久ハ評の如クホホ也

嶋田住源義助

中龜文 「裏以南蛮鉄作之

義助ハ数代同銘有今川の下人として一書を納りて多由と切は作地鉄
細小一書録自育上子也但は義助ハ寛永の比と見ゆ戸打ハ此末人

小丸峯 大畧寛永以ノ作ナルベシ地金乾テ上子ニアラズ

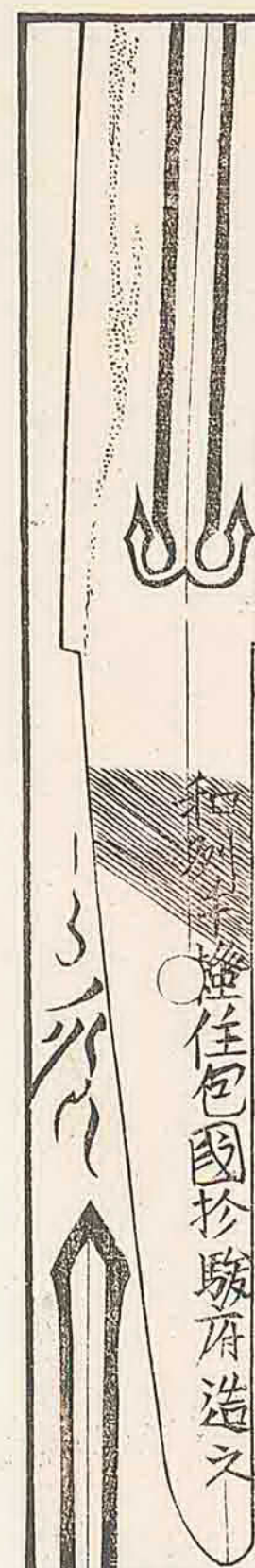
遠江守 嶋田住藤原忠廣

西集及一書ニモラセル故圖シテ示ス

忠廣ハ遠江守嶋田住と切ハ駿河一郡す何國の嶋田ふくや未詳

九公子

和州守 嶋田住包國於駿府造之



包國ハ地鉄細小録荒録有て自深し辰房重貞ハ似る由未考據多し
る上之と堀川國廣ハ亦々々る物外或云南紀重國ハ父亦重と是ふより一廣
長以の録治と云へたり

一書ハ手摺の末包國ハ前井越中守藤原と切駿府少佐寛文の比と云
又初代丹波守吉道門人包國ハ山内久壽衛つと云え和州京より大坂へ下
向し寛文十一年より就中守と云ふ所とある里按ふ或人の説ハ是とある
屋一書ハ疑として駿府造之と切ハ甚長比と云ゆ大坂の包國助ハ包満
と録し凡延寶天和比包國と改めしと云へりむ此作の遠方不異也

九公子

甲州住無舎

ウラ

大正三年二月吉

兼舎ハ地鉄細小録自ひりて上子也關の末流未づれ物也

長曾孫興里

又長一尺三寸

五如圖

延寶五年二月十六日

任東嶺山忍世邊
長曾孫興里作

又長一尺七寸四分

長曾孫虎徹入道興里

ウラ 試ノゾウガナリ 小乱又長二尺三寸二分

角ム子キリヤスリ

長曾孫興里入道市徹

小肉

ウラ

寛文九年二月吉日

長曾孫興里入道市徹

市徹ハ武藏國江戸の住人長曾孫興里入道也此作は鉄細小縁く小
縁多く白まで漆し又の上白く走やう小縁大か減や齊ふ東國細治
數るあま比つづき若き親上より之中心の仕立手縁よく縁の筋め
うふ立ち角切細子銘細縁おて細およりくを走りて少く縁
あへり向く手縁有ふ事の切あふ又所為市徹繁慶ハ世の賞美久
あふして縁更偽物多し故ふ即若ふあて巧小市徹り細やと似せ

水產部藏

「九曜」ヒカキヤスリ

鑢目タレタルハ偽物也

繁慶

彫銘ノ縁タレタル物心ヲ付ベシ

「九曜」ニテ差ガキ

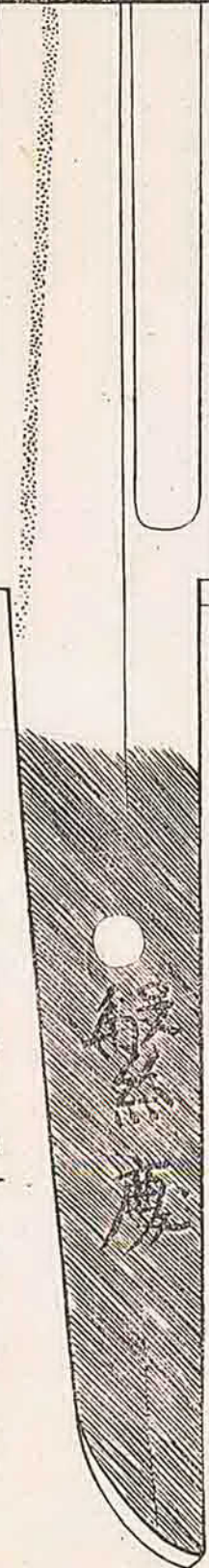
繁慶

地刃ノ別レ見分カタル

刃長一尺八寸八分地金細ニ小銘一面ニアリ肌アラハニナシ

中心ノサキ両方ヨリスリテヤ
ゲンノ刃ノ如シ

「用ム子ヒガキヤスリ」ウラ丸ヤスリ



刃カセニスキ 刃長一尺四寸九分スクヤキ小アリ入

繁慶ハ三州生也駿河ノ末又武州ハ王子小幡ノ住し後江戸鉄炮町

小住す野田善四郎清亮と云繁慶ハ初ノ銘也中ノ鑢目造と云
す刀初ハ中ノ鑢目造と云す刀久々云々所ヨリ上ノ所ヨリ世ノ名
也按ハ新刀ノ専とする所ハ初ノ銘と云々古物茶室の銘
と目一カバ故ハ作も今カシハ銘と云々ハ作も今カシハ銘
ありといハ物ハ銘物也ハ味ありて出る氣の造りでも其
すぞしと云ハ作一して云ハ銘久々云々所ヨリ上ノ所ヨリ
とも初ハ古物ノ銘の造りハ作の銘はさハ初ハ銘世ノ直
貴美すハ初ハ銘と云ハ作ハ銘と云ハ作ハ銘と云ハ作ハ
たるハ銘世ハ偽物多しといハ作ハ銘と云ハ作ハ銘と云
すハ作ハ銘と云ハ作ハ銘と云ハ作ハ銘と云ハ作ハ銘と云
繁昌ハ銘集ハ初ハ銘と云ハ作ハ銘と云ハ作ハ銘と云ハ
すハ作ハ銘と云ハ作ハ銘と云ハ作ハ銘と云ハ作ハ銘と云



「小肉アリヒタワシニシテ上品ナラス

越後幕下夫村加下作

「角子小肉

「ウラ

貞十五枚用伏作

源賴貞。武門暇日貞鍛作之

「角子」「席敷ノ不出ホナルカ如シ

上総公藤原魚重

「小肉

上総守藤原魚重

裏ニタメシノ象眼アリ

刃長一尺七寸七分

荒縁白深

丸子

信濃守藤原弘包

カクミヤ

二代目也父ニハ劣

山雲守藤原土口武

二代目ナルベシ

丸子

於江戶涼義助南蛮鉄

小肉

「ウラ無雪」

延宝二

宇多國宗作

牛込浄留理坂ニ住ス又云芝宇田川町ニ住ス

大和舟安定

「ウラ」

「ウラ」万治三年二月

武州住安利

「ウラ」万治三年二月日

お利ハる集又漏り地鉄細ふお銘せを銘自名て安定はゆの上ち也
大龜又也や、米由來あるをきし安定つらんあらん

康繼以南南蠻鐵

何代目あるて来ふ詳あらず上ち也
「ウラ」於武州江戸作也

榎津守源忠行

「下ハす五分」

「角小肉中龜文ニテ強シ」下二尺一寸

武藏住藤原国保

「ウラ」貞享貳年五月吉日中ッリ大龜文

忠行ハ大坂初代忠經の弟子あて大郎左衛門おけり弟守左衛門と云
江府下向する所をたつといふ事を銘上ち也

國保ハ和州手押の末まで地鉄細又強く龜文多し上ち也出羽多武
越住とも人也前集お別人と書きや

「ウラ」

松齋作

「ウラ」○正徳元辛卯年

九

山城守藤原國重

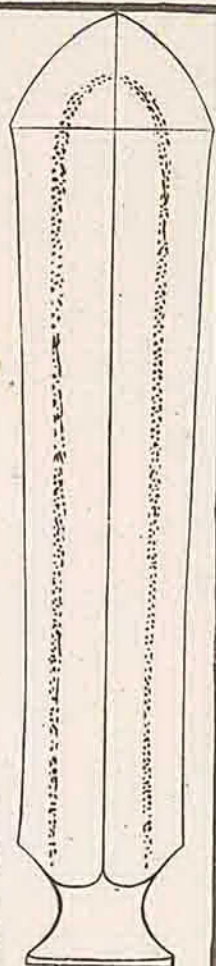
「百國入道壯年ノ銘ナリ」

城守藤原國重

「鎗ハ別テ上手也」

山城守藤原百國入道一虎

老後斯ノ如ク切



朔和丑戌子年八月日

西ノギテ拾好ヨシ
中心長圖ノ外ニ寸四分

○應備前別六村子尤之需造焉

ウラ

平安城吉廣未孫山城守 ○藤原公成入道一虎同風重太子造之

7 ウラノホ

國重入道して一虎と号し嫡子を國重と云ふ平安城吉廣より東流也
父子共ふ江都小住す徳の上子也

角公子

藤原國二



角△子

急

王子三孤愛忠臣

迷ふ心は、おれが、黄金を造

二代三代あはれし

○ 在江蘇原野上

ウラ

安永二巳○五月

卷四 在江与陈永德中

安永四乙未

存問

黄氣福之 吉田隼太好之

隆平初代ハ康隆ノ弟子ヨリテ所集ノ書ニシテ二代目ハ興武ニ
 ト云上キ也之代目ト曰部神田昭神ノ家ナレバ今の隆平ハ四代目ト
 云し上キ所集但元祖ニ代目ヲ及ビテス

角四

角公子

康武佳藤原國住

國言つてあり、帝釋の位す。

角小メシトリ

一今時ノ石堂也丁子龜文ツヨシ上手ナリ

武列住藤原是一造之

「ウ」ヲ 寛延三年 庚午三月吉日

庚午三月吉日

角峯

神田保良

角公子

明和申ノ作ハ此ノ如ク切

以完粟剛鐵保則煉鍛

「安永六、手ヨリ斯ノコトク切

國重うつ人金左衛門と云初八神田後山下湯つのか山城河岸にお修す

角么子

常陸舟宗重

宗重、大坂の二代目多田之助左衛門嘉吉、其切腹江戸に傳へ
父よりわらざる上、あや大衆又みあるりの一、

石見弁國助

大坂初代國助弟小森源一を伊勢神奈保し又江戸小保す
大坂の部小森一

貞享二年十二月吉日

一〇六子

上列於前橋源吉信作之

ウラ

天和三癸年八月吉日

上野國前橋源吉信ハ大坂大和吉道ヲ弟子ニホ小森源吉廣生子小森吉
信ト書リ記セリ二代目大和吉道乃ハ似テリ傍ニ云々ト有アリ
新刀辨疑卷之五終

